

# 令和3年産晩生種を振り返る

王 林	5,383	4,464
ジョナG	7,281	5,876
シナノG	5,965	5,074
飛馬ふじ	7,296	6,410

品 種	最高価格	大小込価格
ふ じ	8,920	7,668
サンふじ	6,515	5,573
む つ	10,927	8,514



少量ながら品質良好、高単価で推移し  
組合員への精算総額は10億8千万となった

専務理事  
**三上 隆基**

近年、生産量に表と裏がみられる  
安定生産と引き続きの入庫をお願いしたい

代表理事組合長  
**大場 勉**



6月20日、令和3年産晩生種報告会が開催された。

既にご存じのように、令和3年産りんごは春先の凍霜害や隔年結果により全国的にりんごの生産量が激減した。当JA管内でも入庫数は前年比約15万6千箱の減であった。

しかし少量ながらも品質は良好で、販売が高単価で推移したことから、当JAにおいては組合員への6月精算での総振込金額は過去最高の10億8千万円を計上することができた。

市場担当者曰く、近年の温暖化の影響で、標高が低い場所では色が付かなくなり、全国のりんご生産量は減少しているという。長野や山形は、りんごからぶどう・もも・なしなど、他作物への転換を図っているため、りんごの生産量は令和2年までも徐々に減少してきていたが、今回の凍霜害により劇的に少なくなった。

このような背景を受け、今後ますます青森県産りんごは、他県産の分まで補填できるほどの生産量が期待される。

# 晩生種総販売金額28億2409万915円

飛馬りんごブランドは  
市場で勝っていきける  
とにかく入庫数量を安定させて  
顧客を離さないでほしい



「今、数量と品位を持っているのは青森県産りんごだけ。とにかく入庫量の安定化を。自分たちの商品を量販店にしっかり売っていく気持ちを持って、ブレなく入庫させていくプロの仕事が必要。自分たちの顧客を離さないで下さい！」

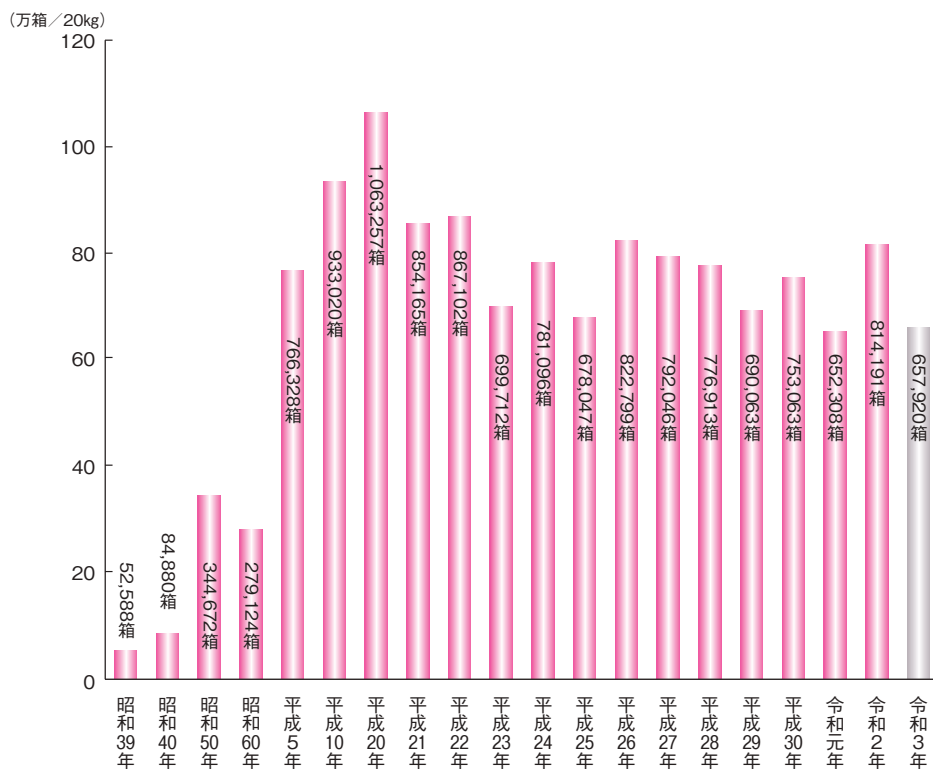
東京青果株式会社 果実部審議役  
**渡邊 勝俊 氏**



「市場は生き物。今回の価格で継続して売れると思わないでほしい。皆様が大切に育てたりんごをその年の最高の価格で精算できるよう、最大限の努力をしますので、災害などを考えずにとにかく平準化を目指した生産をして下さい」

大果大阪青果株式会社 常務取締役  
**荒巻 万寿夫 氏**

## ■リンゴ取扱高



当JA通常総会資料より抜粋

平成29年以降5年間、取扱高実績により入庫数の増減が読み取れる

しかし、量を確保するために品質が劣ってしまったりは、産地の信用を落とすことにつながってしまふ。加えて入庫数量が安定しないと販売計画が出来ず、量販店で売場の確保が出来ない事態が起こってしまふ。

良食味りんごを生産することはもちろんのこと、生産量を安定させた『良食味りんごの安定生産』が地域に求められている。今後とも高位平準化を目指し、りんご産地として生き残るために一丸となつて頑張っていきたいと思います。